

北海道土を考える会 十勝支部 冬期研修会を開催しました。

2024年3月8日



田中支部長

北海道土を考える会 十勝支部は、2月22日(木)に、十勝川温泉 観月苑にて冬期研修会を開催いたしました。テーマを【**土壌の力を使いこなせ**】とした今回の研修会は、農研機構 農業環境研究部門(農環研)とスガノ農機の共同研究の一環として2021年から継続してきた土壌断面調査総括と、作物の生育を促す土壌診断データの読み取り方というように、私たちの生産のベースである「土」にターゲットを絞った勉強会といたしました。

農環研の前島勇治氏による【**十勝のモノリスが語る土壌の現在・過去・未来**】では、芽室、更別(2021年)、池田(2022年)、幕別(2023年)の4カ所で行われた調査の詳細についてお話しいただき『断面には、これまでの土づくりがしっかり刻印されていました。共通していた50cm級の作土

の厚さに驚嘆し、耕起することが土づくりの第一歩だと改めて感じさせられた調査でした。』と締めくくられました。

続いての帯広畜産大学 谷 昌幸教授による【**土壌診断票の実践的活用方法**】では『肥料で作物を穫るとするのはイメージ。大切なのは、作物の「ごはん」(主食)として土壌中に含まれている養分で、その「ごはん」を作物がどのくらい吸えているかを調べるのが土壌診断です。土壌中にしっかり「ごはん」があるのに、「おやつ」(肥料)を食べさせますか?「ごはん」がたくさん食べられてるなら、「おやつ」は不足しているものだけを入れるというのが考え方の基本です。葉面散布やバイオスティミュラントは作物を一時的に元気にするエナジードリンクのようなもの。見方を変えれば、これが効いているのは「ごはん」が足りていない証拠なんですね。』という谷教授ならではの理解しやすい導入から始まりました。最終的には実際の土壌診断票を見ながら、参加農家とガチンコの数値確認検討会となり、谷教授には、畑作地帯ならではの土壌データに対する意識の高さをしっかり受け止めていただきながら、具体的で的確なアドバイスをいただきました。

研修会後の懇親会では、美瑛から参加された尾形さんの情報提供や、谷教授に同行されて参加した帯広畜産大学 島田助教授の「団粒構造談話」も飛び出し、アルコール片手の《情報交換》は深夜まで延々と続けました。

翌日の北海道土を考える会役員会では、田村会長をはじめとする役員が全道から集まり、7月開催の「北海道土を考える会」について検討を行いました。今後とも会員の意見を集約して、役立てていただける事業を開催してまいります。



ご講演いただいた谷教授(右)と前島氏(左)



土壌断面調査を行った方々。左から小尾さん、吉田さん、武智さん(吉本氏は欠席)



70名を超える参加者は最後まで講演内容に聞き入っていました



北海道土を考える会 田村会長



司会進行は副支部長の藤内さん(初)



スガノ農機㈱ 渡邊社長



懇親会の締めは、やっぱり小尾さん